



# NEW ZEALAND

ニュージーランド



以心伝心は通じない  
いらいらしないで口に出して意思を伝える

思い通りに事が  
運ばないのは当たり前

ニュージーランドでは物事の進み具合が遅い。これは良くも悪くも、ニュージーランド人がのんびり構えているからだ。バスが時間通りに来なくても慌てないし、約束に多少遅れてもうるたえない。傘がない時に土砂降りに行くわけばやむまで雨宿り、といった具合。したがって、社会が効率的に動き、何事も行き届いている日本とのギャップは非常に大きい。

つい先日ヒーターが壊れたので修理を手配した。しかし担当者が来ると言う日時はまったく信用ならない。こんな時は「いつか来るだろう」程度に思い、期待しないのが一番だ。スムーズに、自分の思うように事が進むと仮定してその先の計画を立てるのはまったくの無駄。「来ればラッキー、来なければもう一度連絡しないと」という心構えでないと、こちらの負けだ。

こうしたノウハウを心得て生活をしていけば、文化・習慣が違う国とはいえ、だんだんそれらに慣れてくる。そのうち会話なしに相手が何を欲しているか、何をしようとしているかも想像がつくようになる。

しかし、この「以心伝心」の技は日本人が特別にたけているのであって、それをニュージーランド人に同様に求めるのは難しい。明確な考えを持ち、それを言葉で主張するのがコミュニケーションの基本であるこの国では、そぶりを見せただけで相手に意向をわかってもらおうとしても無理。ためらわれるような内容でも、きちんと口に出す。そうしないと、周りの人がこちらの様子についてまでたつても気付かず、従って自分の意図することが起こらない、といらいらすることになる。

## 「笑い」という大きな壁

長年この国で暮らしていても、なかなか克服できないギャップがある。それは「笑い」にまつわるもの。ニュージーランド人と一緒にコメディーなどを見ていても、おかしいと思う対象や場面が違い、なかなか一緒に笑えない。笑いの根底にはその国の文化が横たわり、それにその場の雰囲気といった要素も絡んでくる。一筋縄ではいかないギャップなのだ。それでも一か八か友達に言ってみた冗談が受けた時には、彼らの仲間入りを果たせた気がする。

能率の良さでは世界で一、二を争う日本から、能率は二の次のニュー

ジーランドへ。この国だけでなく、一步世界に出れば大なり小なりコミュニケーションや文化に関するギャップに出くわすもの。いら立つことも、困惑することもあるが、この差が世界を面白くしているともいえる。以前は気になったギャップを笑い飛ばせるようになった時が、真にその土地になじんだ時なのかもしれない。

